(李氏) 朝鮮王朝系図

※王名の後の続柄は、前王との関係。＊は、庶子。
王名の次行は「即位年-当時の年齢」。年齢は即位年から誕生年を単純に引いたもの。
あくまでもドラマを中心にまとめているため、事実と異なるものもあることをご理解してご覧ください。

(1) 太祖（ﾃｼﾞｮ）李成桂
1392年-57歳

高麗王朝最後の国王となり、翌年、李氏朝鮮王朝建国。

(3) 太宗（ﾃｼﾞｮﾝ）-五男
1400年-33歳

(2) 定宗（ﾁｮﾝｼﾞｮﾝ）-次男
1398年-41歳

(4) 世宗（ｾｼﾞｮﾝ）-三男
1418年-21歳

ハングル制定、歴史・地理など書籍を編纂し、歴代最も優れた王といわれる。

(5) 文宗（ﾑﾝｼﾞｮﾝ）-長男
1450年-36歳

(7) 世祖（ｾｼﾞｮ）-次男
1455年-38歳

端宗を補佐していたが、強制的に王位を剥奪し即位した。

(6) 端宗（ﾀﾝｼﾞｮﾝ）-長男
1452年-11歳

(徳宗)

(8) 睿宗（ｲｪｼﾞｮﾝ）-次男
1468年-18歳

(9) 成宗（ｿﾝｼﾞｮﾝ）-甥
1469年-12歳

即位当初は、貞熹大王大妃の垂簾聴政。ユン廃妃（燕山君の母）を賜薬により毒殺に処す。

母の毒殺などが原因で稀代の暴君となる。側室に三大悪女チャン・ノクスがいる。

(10) 燕山君（ﾖﾝｻﾝｸﾞﾝ）-長男
1494年-18歳

異母

(11) 中宗（ﾁｭﾝｼﾞｮﾝ）-次男
1506年18歳

3番目王妃、文定王妃の参謀は、三大悪女のチョン・ナンジョン。

(12) 仁宗（ｲﾝｼﾞｮﾝ）-長男
1544年-29歳

異母

(徳興大院君)

(13) 明宗（ﾐｮﾝｼﾞｮﾝ）-次男
1545年-11歳

在位期間は9ヶ月で王朝最短。

(14) 宣祖（ｿﾝｼﾞｮ）-甥
1567年-15歳

在位から8年間は母、文定王妃が実権を持つ。

(15) 光海君(ｸｧﾝﾍﾞｸﾞﾝ）-*次男
1608年-33歳

(元宗)

「文禄の役」「慶長の役」で豊臣秀吉からの侵攻を受ける。
ホ・ジュンを「東医宝鑑」の編纂の責任者に命じる。

燕山君と同様に暴君として廃位されたが、王子時代は外交政策で秀でた力を発揮したやり手。「東医宝鑑」の編纂完了。

(16) 仁祖（ｲﾝｼﾞｮ）-甥
1623年-28歳

(昭顕)

(17) 孝宗（ﾋｮｼﾞｮﾝ）-次男
1649年-30歳

垂簾聴政を受けず、直接国を統治した。党派閥対立が最も激しい。側室に三大悪女のチャン・ヒビンがいる。

清に人質として送られていたが、親清派であると見た父・仁祖に毒殺されたという説がある。

(18) 顕宗（ﾋｮﾝｼﾞｮﾝ）-長男
1659年-18歳

(19) 粛宗（ｽｸﾁｮﾝ）-長男
1674年-13歳

チャン・ヒビンの息子。

歴代最も長生きで、在位期間も52年で最長。母は元宮廷の下働き。

(21) 英祖（ﾖﾝｼﾞｮ）-*次男
1724年-30歳

異母

(20) 景宗（ｷｮﾝｼﾞｮﾝ）-*長男
1720年-32歳

イ・サン。最も人気の高い王。王位後継者だった父は濡れ衣で殺される。自身も生涯廃位や暗殺を狙われた。

(荘祖)

即位後は英祖の妃・貞純王妃の摂政、安東金氏による勢道政治が続く。

(恩信君)

(22) 正祖（ﾁｮﾝｼﾞｮ）-孫
1776年-24歳

(恩彦君)

幼年期は、父の大院君が摂政の任に付いたが、成人してからは、妃の閔妃が政権を握った。
大韓帝国の初代皇帝。

(南延君)

(23) 純祖（ｽﾝｼﾞｮ）-次男
1800年-10歳

(全渓大院君)

(興宣大院君)
(是応)

(翼宗)

(25) 哲宗（ﾁｮﾙｼﾞｮﾝ）-叔父
1849年-18歳

(26) 高宗（ｺｼﾞｮﾝ）-大甥
1863年-11歳

(24) 憲宗（ﾎﾝｼﾞｮﾝ）-孫
1834年-7歳

純祖の妃である純元王妃が摂政を執った。

垠　堈

(27) 純宗（ｽﾝｼﾞｮﾝ）-長男
1907年-33歳

李氏朝鮮王朝最後の君主。